

歴史をつなぐ

前橋東看護学校校長 塚越 弥生

木々もすつかり芽吹き、新緑の葉が茂る季節となりました。会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃のご支援に、深く感謝いたします。私は、平成三十年三月、前橋市を定年退職し、翌月よりお世話になっております。

教育の歴史です。既橋病院開院の、昭和三年、院内で看護教育をスタートさせ、昭和十六年十一月からは前橋積善会附属看護学校で、昭和二十五年に自然廃校になってから、再び、既橋病院内で、その後、昭和二十八年

が、同じ教育を受けていても、男性には試験の受験資格すらなかったそうです。そこで、群馬県に看護婦検定規則の改正を求め、男性に看護師の道を開いたそうです。群馬県立図書館に出向き調査したところ、昭和七年十月二十五日の上毛新聞に、昭和七年度第二回看護婦試験合格者二百六十四名（出願者は七百一名）の発表があり、最後に、塚田堯義とありました。そして翌々日の二十七日には、当時二十八歳の塚田氏の顔写真とともに三段

就任して間もなく驚かされたことがあります。それは、本会の看護九十余年、連綿と看護教育の後、女性性看護婦が実施すること看護婦に合格すること看護婦資格を得ていたそうです

抜きて「男でも看護婦とはこりやどうじゃ既橋病院の塚田君見事試験にパス女性職業戦線へ闊入」と見出しを組み、大きく報道しておりました。このような伝統ある本会の看護教育を預かる者として、もとより微力ではございますが、重責を全うし、歴史をつないでまいりたいと存じますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

新任あいさつ

前橋積善会事務局長 関 孝雄

平成三十年四月より公益社団法人前橋積善会の事務局長を拝命いたしました。この度、会報「積善」にて会員の皆様に自己紹介させていただける機会をいただきました。感謝申し上げます。栗木理事長をはじめとする、理事・監事の方々、職員の皆さんの指導・協力の元、日々の職務を遂行し一年が過ぎようとしています。

年勤続表彰、前橋東看護学校入試試験や前橋積善会既橋病院歴史資料館での展示物などとおして、前橋積善会の成り立ち、永い歴史や会が果たしている役割に触れる事が出来、素晴らしい会で働けることを光栄に感じています。そうした中で、病院西側を南北に走っている市道の拡幅と歩道の整備に関する仕事もさせていたでいます。現在の市道は、道幅が狭いため大型車の通行を規制しているにも関わらず交通量が多く歩道も無い危険な状況に加え、以前より、江木町の住民の方や周辺地域の方からは、既橋病院